

# 民謡の歴史

## 権左が西国

### 匠 探訪

— 52 —

テレビ番組の収録で『権左が西国』をうたうのでその由来を教えてほしい、と民謡歌手・小沢千月さんから問い合わせがありました。

民謡という言葉が一般的に使われるようになったのは、明治20～30年代ごろからとされています。同40年代から大正時代にかけて民謡集が出版されるようになり、『○○節』

「○○音頭」「○○甚句」のように曲名が付けられるようになったようです。

『権左が西国』も明治から大正にかけて出版された『海上郡誌』や『匠瑳郡誌』などには、農作業をしながら口ずさむ労働歌として記載されています。

昭和49年に『権左が西国』『庄八』『東上総』が八日市場盆踊りとして県の無形文化財に指定されたことで関心が高まり、戦後途絶えていた市内での盆踊りが一部地域で復活したこともつながったようです。

権左が西国ナアー ナアーヨ長の旅する あとではお方がお茶の水くむ お茶水くめども 桶に水なし

うたい出しの歌詞が「権左が西国」なので曲名もそう呼ばれていますが、文化財指定の際に、長い歌詞の中からこの地域に関するものだけをまとめて『権左節』という民謡にしたこともありました。し

かし、定着するまでには至らず、その後も『権左恋歌』の発表や市内の民謡団体による小学生の普及活動などがありました。

昭和45年11月、小説家・野坂昭如氏が民間土俗に埋もれた唄を拾い集めるための取材で本市を訪れました。同氏は著書で、今泉(野田地区)の地曳き網唄や「東西南北され唄づくし」として「日の出家節」(当時・野栄町)、「田植唄」「東上総盆踊唄」「大浦盆唄」「ひょうどり唄」(以上当時・八日市場市)などを紹介しています。

市内には、祭りばやしや盆踊り唄など古くからの伝統芸能がまだ残されています。それらを何らかのかたちで生かしたいものです。

■ 八日市場図書館 ☎ 73・3746

### NHK総合テレビで

#### 県内の民謡を紹介

『権左が西国』をはじめ、県内の民謡「白浜音頭」「白柳粉屋」「朝の出がけ」などが紹介されます。

番組名：それいけ！民謡 うた祭り

放送日：9月4日(土) 15時5分～49分



毎年夏に行われる八日市場の盆踊り定例発表会